

FIG2023 年作業週間の概要

1. 主催者

国際測量者連盟 FIG、全米職業測量者協会 NSPS (National Society of Professional Surveyors)

2. 会場

アメリカ合衆国 フロリダ州 オーランドにある Signia by Hilton Orlando Bonnet Creek と Waldorf Astoria Orlando の二つのホテルの複合施設。宿泊施設と会議場が一体となったホテルで会議場は二つのホテルの中間に位置する。今会合は対面方式のみで行われ、Web 配信は行われなかった。

3. 会期

5月28日～6月1日

FIG の運営事項を審議する総会 (General Assembly) の第 1 回が 5 月 28 日に、第 2 回が 6 月 1 日に開催。その間の 5 月 29～31 日の 3 日間に基調講演 (Plenary Session)、技術プログラム (Technical Programs) のほか、定期会合として、会員会合 (Member Association Forum)、会長会議 (Presidents Meeting) 分科会会議 (Commission Meetings) などが開催された。

4. 今会合のテーマ

「この世界を守り、新しいフロンティアを開拓する」

FIG は、国連持続可能な開発のための 2030 アジェンダに掲げられた持続可能な開発目標 (SDGs) を近年の取り組みの中心の一つとしている。今会合では、測量及び地理空間情報の専門家として、SDGs の達成に貢献しようということをより鮮明にテーマに掲げた。

5. 総会 1 (初日)

今会合は、FIG の新しい指導體制での最初のイベントである。正会員数は 2022 年 10 月時点の 82 か国 96 団体から 81 か国 95 団体へと各 1 減となった。

(1) 現在の理事会の構成

会長	Diane Dumashie (2023-2026) (英国)
副会長	Mikael Lilje (2021-2024) (スウェーデン)
	Kwame Tenadu (2021-2024) (ガーナ)
	Winnie Shiu (2023-2026) (米国)
	Daniel Steudler (2023-2026) (スイス)

(2) Dumashie 会長から今後 4 年間(2023-2026)の活動方針を説明

Dumashie 会長の説明する活動方針は非常に野心的なもので、「社会に奉仕し、人々と地球に利益をもたらす:グローバルな課題に取り組む」というビジョンの下、持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に専門測量者集団として貢献するというものであり、そのためのタスクフォースを既存の 1 つに加えてさらに 3 つ設置し、また FIG 内外との連携を進めるというものである。あらゆるレベルで社会へ働き掛けて SDGs に取り組もうと呼びかけるものである。

(3) FIG WW2027 年開催地の招致

FIG WW2027 年の開催地候補として、ブータンとノルウェーの 2 か国がそれぞれ招致のためのプレゼンを行った。開催地は電子投票で決定され、最終日の総会で結果が報告される。

6. 総会 2 (第 5 日:最終日)

(1) 2027 年開催地の投票結果の公表:僅差 (32 票対 29 票) でノルウェーに決定した。

(2) ウクライナの測量技術者支援のための FIG 基金への寄付でリプロ社 (\$10,000) と岡田社長 (\$1,000) が表彰された。

(3) 次回以降の FIG 開催の現状報告:南アフリカ (2026 年)、オーストラリア (2025 年)、ガーナ (2024 年)。

7. 基調講演 1

(1) 「この世界を守る」(第 2 日)

(2) 「新しいフロンティアを開拓する」(第 3 日)

(3) 「グローバルな課題への取り組み」(第 4 日)

8. 技術セッション 測地技術の能力開発 (第 3 日)

「能力開発の課題は継続的なものであり、現在のニーズと将来の願望を認識しながら、教育と学習、トレーニングと実践の間の絶妙なバランスが必要である。能力開発の様々な取り組みや経験についての洞察を提供する。」との趣旨で設けられたセッション。

(1) Murakami (日本):「公共測量作業規程準則の近代化に関する研究」

日本測量協会の自主研究として行っている「測量近代化研究会」の活動を報告

9. その他

(1) 学習証明制度: Continuing Education Units of Professional Development Hours (CEU/PDH)

日本の CPD 制度に類似したもので、FIG2023 年作業週間の各講演を聴講することで FSMS から CEU/PDH 単位取得の証明を得られる。